

岡山県立倉敷天城中学校 いじめ問題対策基本方針

令和7年4月

いじめに関する現状と課題

・本校のいじめの認知件数は年間数件程度で推移し、主な原因は人間関係がうまく構築できないことに起因している。現状では直接的に表面に現れるような事案は確認されていない。現代の中学生の特徴として幼少からの生育過程において身の回りにおこる課題・問題を自らの力で解決できない。そのため人間関係をうまく構築できないことがいじめを誘発する原因と考えられる。本校の生徒においてもこの問題に当てはまる生徒が増加している。またスマートフォンの普及によりSNS(ソーシャルネットワーキングサービス)等への書き込みなども生徒間トラブルやいじめを誘発する大きな原因となっている。現在、生徒課・教育相談室を中心にいじめ問題への対応を行っているが、未然防止の取組をより強く推進するためには、他の分掌・教科と連携して取組を行う必要がある。また、いじめの早期発見、適切な対処のための教職員研修の充実も必要である。

いじめ問題への対策の基本的な考え方

・学校全体としての取組を推進するためにも、いじめ対策委員会には、生徒課以外にも各課・室、学年の教職員も参画し、それぞれの立場から実効的ないじめ問題の解決のための取組を行う。

・いじめの早期発見のため基本的に各学年とも年4回の教育相談を実施、得られた情報を教職員間で共有し早期発見のための体制づくりを確立する。

・学校行事(人権教育講演会、東雲祭など)や各委員会の取組(ピアサポート活動、ボランティア清掃)において適切な人間関係の構築について学習する。また、学級活動、部活動などを通して自己有用感・自己効力感を高められる学校づくりを目指す。併せて教員集団から生徒に対して適切な人間関係の築き方について日々の学校生活の場面で教授する。

・全校、学年集会などでSNSの利用、インターネットのいじめの問題について認識を深める機会を設ける。

<重点となる取組>

・生徒の正しい人間関係構築の確立には、教員集団の適切な関わりが不可欠であるという共通認識を職員会議・学年会議などを通じて深める。また、ピアサポート活動を実践し、自己効力感、豊かな人間性などを自らの力で確立できる能力を育成する。また、自他を尊重する態度を育て望ましい人間関係を築くことのできる資質や能力を育てる。

・「いじめについて考える週間」において、教育相談アンケートを実施、生徒の心の状態を把握し、早期発見・早期解決の機会とする。また、いじめについての認識を高めるため全校生徒からいじめ防止の標語を募集する。

・教科「技術」において情報モラルを高めるための単元を計画的に実施する。

・「道徳」において、「思いやり週間」と「人権週間」に関連させて標語づくりやグループトークなどの活動を取り入れた授業を実施し、人権について主体的に考える態度を育てる。

・いじめの未然防止、早期発見、いじめへの対処等の取組の実施状況を学校評価の評価項目に位置づけ、取組の改善に生かす。

